

論より証拠！ 施炭によるナラ枯れ防止をやってみる

土壌の酸性化によって樹勢が衰えた樹木の根元に炭を撒くことでその樹木が元気になるらしい。もしそれが本当なら、今、日本全国に広がっているナラ枯れ被害を防ぐことができかもしれない。こういう話は論より証拠、ということで森林の風でも早速試してみることにしました。

場所は、菰野町は三重県民の森「流れの広場」に調査木を定め、その根元の土壌のPHを測定し、樹勢の状態を観察しました。その時の調査記録の一部を記録票1、2に示します。

対象木付近の地面表面土壌のPH値は3.8～5.4、地面から10センチ掘った土壌は4.2～4.3でした。三重の森林土壌のPH値は平均5ということなので県民の森の土壌はかなり酸性化しているようです。調査対象木のコナラには梢枯れや枝枯れが散見され、胴吹きもたくさん出ていて、葉も枝に纏わりつくようになっていることなどから樹勢の衰えの兆候ありと判定、この木に施炭（炭の撒布）することにしました。

実施した施炭の方法は、木から半径2mと枝先先端部あたりの地面に2重丸を描くように浅い溝を掘り粉炭20kgを埋設。さらに5gほどの炭を水を加えた水溶液を木の周りに散布しました。尚、調査木はパッチディフェンスで囲んで調査エリアの明確化と獣害防止を図ることにしました。



中央が調査木。その樹冠には枝枯れ・梢枯れが見られます



枝の先端部付近の地面に円周状の溝を掘ります



溝に粉炭を撒いて土で埋め戻し
炭の飛散を防ぎます



対象木をパッチディフェンスで囲みます

今後 定期的にPHを測定と樹勢の観察を継続してHPや森のたよりで報告しますので楽しみにしててください。

因みにPHの測定は ポケットタイプPH計：SK-630PH（佐藤計量器製作所）を使用。採取土壌 10g に対してミネラルウォーター 25g を加え攪拌して 1 時間放置した水溶液にPH計を入れて測定しました。

とにかく弱ったコナラが元気になってくれたら 嬉しいですけどね～(^^♪